

# Newsletter

JAPAN SOCIETY OF EDUCATIONAL INFORMATION

日本教育情報学会

NO. 184 2023. 2. 20

〒582-8582 大阪府柏原市旭ヶ丘4丁目698-1

大阪教育大学 理数情報教育系 理数情報部門 若杉研究室

日本教育情報学会 運営本部事務局 TEL: 090-1026-1413 FAX:050-3488-5061

E-mail: [jsei@jsei.jp](mailto:jsei@jsei.jp) <http://jsei.jp/home/>

## —— 日本教育情報学会 第39回年会 ——

開催日：2023年8月26日（土）・27日（日）

テーマ：AI時代における学びの多様化を考える

2020年度から段階的に施行された新学習指導要領では、情報活用能力を言語能力と同様に「学習の基盤となる資質・能力」と位置付け、学校のICT環境整備とICTを活用した学習活動の充実を図ろうとしている。そのポイントとして、小学校では新たにプログラミング的思考を育み、中学校技術・家庭科（技術分野）においてはプログラミングや情報セキュリティに関する内容を充実させ、高等学校においては、情報科において共通必修科目「情報Ⅰ」を新設し、全ての生徒がプログラミングのほか、多様なデータを適切かつ効果的に活用する力の育成を目指す、といった点が挙げられる。

他方、高等教育においては、社会で求められる人材の高度化・多様化および教育現場のDX化が進むにつれ、これまでの対面授業に加えて、遠隔授業やオンデマンド型授業、あるいは学習者ひとり一人のニーズに合わせた個別最適な学習空間の創出に力を入れるなど、学びの在り方にパラダイムシフトが起きていると言って過言ではない。

また、経済産業省が進めている「未来の教室」の実証実験では、1人1台端末とさまざまなEdTechを活用した新しい学び方が模索されている。その「未来の教室」には、子ども向けの知育アプリや、小中学生向けの学習サポートサービス、オンライン講義、社会人向けの英会話やプログラミング学習などが含まれ、これまでの伝統的な教室の常識が大きく変わろうとしている。

しかしながら、学びの在り方が如何に変わろうとも、学習者のニーズを的確に把握し、彼らの成長に役立つことが第一であることに変わりない。そのために、個々の学習者が自律性を維持し、興味関心を持ち続けて取り組める仕組みや、創造性を育むコンテンツの提供が不可欠であることは言うまでもない。また、教師の役割も教える先生や教えずに「思考の補助線」を引く先生、寄り添う先生など、これまでの常識に捉われない発想の転換が求められている。

日本教育情報学会第39回年会在が、教育DX推進の現状や課題を踏まえつつ、AI時代における学びの在り方をさまざまな角度から検討・検証する場となることを心から願う。各分野の専門家の方々に幅広い視点からこのテーマを巡り、2023年8月の港町神戸にて活発な議論が交わされることを期待したい。

第39回年会実行委員長 陳 那森（関西国際大学）

開催日：2023年8月26日（土）・27日（日）

会場：関西国際大学(神戸山手キャンパス)

<所在地> 〒650-0006 兵庫県神戸市中央区諏訪山町3-1

<URL> <https://www.kuins.ac.jp/>

事務局：日本教育情報学会 第39回年会実行委員会

<所在地> 〒661-0976 兵庫県尼崎市潮江1丁目3番23号

関西国際大学 経営学部 陳那森 研究室

06-6498-4755 (代表)

年会 Web ページ：<http://jsei-nenkai.jp/>

主催：日本教育情報学会

後援（予定）：兵庫県教育委員会、神戸市教育委員会、尼崎市教育委員会、  
三木市教育委員会

## 日程（予定）

<1日目> 8月26日（土）		<2日目> 8月27日（日）	
10:00～12:00	課題研究発表	9:30～12:00	課題研究発表 一般研究発表
12:00～13:00	昼食・休憩 理事会・評議員会	12:00～13:00	昼食・休憩
13:15～13:45	総会・学会賞表彰式	13:00～14:00	特別セミナー
14:00～15:00	基調講演	14:15～17:15	一般研究発表 一般研究発表(オンライン)
15:15～17:15	シンポジウム		
17:45～	懇親会		

※変更が生じる場合がありますので、次号 NL 及び年会 HP にてご確認ください。

### ■開催方式について■

- ・「対面」での発表方式を検討しています。ただし一般研究発表の一部は完全オンライン方式での実施を計画しています(視聴教室はありません)。
- ・なお、新型コロナウイルス感染症流行の影響により開催方式の変更の可能性もあります(「オンライン」等の開催)。開催方式の詳細や懇親会開催の有無につきましては、次号(2023年6月頃)のニューズレター刊行までに決定いたします。

## 【1】 基調講演（8月26日(土) 14:00～15:00）

### ポストコロナと大学設置基準改正後の3つのポリシー

- ・ 講演：濱名 篤（関西国際大学 学長・学校法人濱名山手学院 理事長）  
（司会：陳那森 関西国際大学）

#### 【趣旨】

コロナ禍4年目を迎え日常生活が戻りつつあるが、この間DX化は急速に進み、初中等教育も大学教育も教育環境は大きく変化した。ZoomやTeams等による遠隔学習は、対面授業に戻ってきた後にどのように定着または活用されていくのか。2022年10月の大学設置基準改正を受け、規制緩和と各大学の裁量権が大きくなる中で、どのような影響が出てくるのか。学修成果の可視化や質保証に向けて、3つのポリシー（中等教育ではスクールポリシー）を点検しつつ考えていきたい。

## 【2】 シンポジウム（8月26日(土) 15:15～17:15）

### AI時代における学びの多様化を考える

- ・ パネリスト（五十音順）

- 大石 哲也（九州工業大学）  
教育におけるデータ活用を推進する視点・立場から
- 神月 紀輔（京都ノートルダム女子大学）  
教育DX、学びの最適化の視点・立場から
- 米田 浩（尼崎市立教育総合センター 学校ICT推進課）  
教育行政、初等教育におけるICT教育の視点・立場から
- 森山 潤（兵庫教育大学）  
中等教育を中心としたICT教育研究の視点・立場から
- 山下 泰生（関西国際大学）  
大学における情報基礎教育の視点・立場から

- ・ コーディネータ：沖 裕貴（立命館大学）

#### 【趣旨】

本シンポジウムでは、本大会の趣旨を踏まえ、コロナ禍において教育を取り巻く状況が大きく変わりつつあるなか、教育DX推進の現状や課題を踏まえつつ、AI時代における学びの在り方をさまざまな角度から検討して「近未来の教育像」を見据え、今ここから何をどう進めていけばよいか、教育情報学として道筋を提示することをめざす。

## 【3】 課題研究

### ■教育資料研究会

テーマ：新たな価値を見いだす個別最適化された学びと教育資料のあり方

【コーディネータ】成瀬 喜則（富山大学）

又吉 斎（沖縄女子短期大学）

#### 【趣旨】

教育 DX によって、児童生徒一人ひとりに個別最適化され、創造性を育む教育の議論が進む中、学習教材の在り方、読解力を高める教育資料の使い方など、これまでの研究の知見を生かしながら新しい方向性を考える必要が増している。

CBT の導入も急速に進められるなど、教育を取り巻く環境は常に変化しており、新たな教育スタイルに呼応して、教師に求められる資質・能力も絶えず向上させていかなければならないという認識の変革も求められている。教育資料のデジタル化と同時に、学びの中で重要とされている従来の教育資料の活用方法とどのようにベストミックスさせていくか、情報を収集し、活用するためにはどのようなスキルが必要になるか、十分に研究を進めることが求められている。

教育資料研究会では、多くの教育実践を共有しながらこの問題について考えてきたが、「学び」という本質を見据えながら、児童生徒が自律的に必要な情報を収集して、分析するための方法をどのようにすれば身につけることができるかを、この研究会でさらに議論したいと考えている。さまざまな立場から多くの方に参加していただきたい。

### ■国際交流研究会

テーマ：ニューノーマル時代における教育・研究のグローバル化の在り方を模索する

【コーディネータ】清水 義彦（富山県立大学）

総田 はるみ（横浜商科大学）

#### 【趣旨】

国際交流研究会では、日本教育情報学会における海外との学術交流やグローバル人材育成の在り方等に関する研究活動を推進している。ICT 技術の急速な進歩や新型コロナウイルスの感染拡大など社会を揺るがすような大きな変革にも対応できるスキルとマインドを兼ね備えた人材育成のプラットフォームの役割を担うことを目指している。

そこで、本研究会ではこれまでに、日本の大学を卒業し起業した元留学生を講師に招き「留学生のキャリア支援企業の視点から」という講演会を開催し、多様な価値観を持つ多彩な人材を適材適所で活かす実践例をもとに見えてきたグローバル化の課題を議論してきた。また、本研究会会員と海外の研究者が研究成果を発表する機会を設け、互いの研究領域を知るとともに連携の可能性を模索してきた。今回の課題研究が AI との共生を図り自律性、創造性を育む人材の育成を視野に入れた国際交流・国際共同研究となることを目指す。

## ■デジタルアーカイブ研究会

テーマ：多様なデジタルアーカイブを活用したエコーチェンバー現象の克服

【コーディネータ】井上 透（岐阜女子大学）

皆川 雅章（札幌学院大学）

### 【趣旨】

AI時代は多くの利便性をもたらしたが、AIの核心であるディープラーニングによる情報提供は個人の知の拡大を阻害するエコーチェンバー現象が危惧されている。さらに、学校教育や図書館や博物館などの社会教育の現場では実体験や実物へのアクセスが制限され、新たな知との出会いが制限され学びの多様性が阻まれている。そのような問題を解決する糸口として、そしてCOVID-19対策の意味合いも含め、非接触型のオンライン教育におけるデジタルアーカイブの活用が注目されている。具体的には、先人が育んだ地域の集合知である地域資料デジタルアーカイブや、それらを相対化して学ぶ視点を提供する、ジャパンサーチやEUのヨーロッパアーナ、DPLA（米国デジタル公共図書館）の分野横断統合ポータルが存在し、学校や社会教育の調べ学習、キュレーション学習などでの活用を挙げることができる。エコーチェンバー現象の克服を目指す、これらの多様なデジタルアーカイブの開発と活用事例を分析し、AI時代における学びの多様化「セレンディピティ」を考えたい。

## ■ICT活用研究会

テーマ：ICTを最大限活用し主体的・対話的で深い学び空間の創出

【コーディネータ】河野 敏行（岡山理科大学）

坂井 岳志（世田谷区八幡小学校支援コーディネーター）

### 【趣旨】

「児童・生徒をはじめとする学習者の資質・能力の育成に向けて、ICTを最大限に活用し、これまで以上に「個別最適な学び」と「共同的な学び」を一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた取り組みについて議論する。そのために、以下のテーマを中心の議論・開発を行い、教育者の意識と技術を高めていくことをテーマとする。

1. 全ての学習者に向けた教育サポートシステムおよび教材の開発
2. 1人1台時代の学習を支える学校や授業の在り方についての研究
3. ICTの活用促進のための具体的な学習環境や教材の開発
4. プログラミング思考力、創造的能力、AIリテラシーを養う教育や授業の開発
5. ライフスキル（非認知能力）を育てるPBLやSTEAM教育を活かしたカリキュラムの開発
6. 主体的に生きる学習者のためのデジタルシティズンシップ教育
7. 生涯を通して学び続けるためのICT活用
8. 時間と空間を超えた遠隔講義システムを利用した教育の開発および活用

## ■著作権等研究会

テーマ：教育 DX における著作権

【コーディネータ】塩 雅之（常磐大学）  
町 英朋（常磐大学）

### 【趣旨】

著作権等研究会では、教育・研究などにおける著作権等に関する研究活動を行っている。AI 技術の進歩により、AI によって様々な創作物が作られる時代となっており、AI の創作物についての著作権が議論されるようになった。教育・研究の場面で AI の創作物を利用するにあたり、著作権等の正しい理解とあるべき制度の検討が必要となる。

また、政府の規制改革会議で検討されている著作権法の改正について、教育・研究の場面でどのような変化をもたらすのかを検討していく。

## ■特別支援教育 AT 研究会

テーマ：合理的配慮とアシスティブ・テクノロジー

【コーディネータ】新谷 洋介（金沢星稜大学）  
小川 修史（兵庫教育大学）

### 【趣旨】

文部科学省の「新しい時代の特別支援教育の在り方に関する有識者会議報告」では「ICT 利活用等による特別支援教育の質の向上」として特別支援教育における ICT 利活用の意義と基本的な考え方、今後の方向性が示された。また、同省の「障害のある子供の教育支援の手引～子供たち一人一人の教育的ニーズを踏まえた学びの充実に向けて～」においても、特別支援教育における ICT 活用の重要性が述べられている。また、大学教育においては、特別支援学校教諭免許状コアカリキュラムに ICT の活用におけるアシスティブ・テクノロジーを講じる必要性について、「特別支援学校学習指導要領」や「教育の情報化に関する手引」をふまえることが示されている。

それら障害に応じた ICT 機器等の活用（アシスティブ・テクノロジー）と、指導における十分な配慮と環境の整備、教員の専門性の向上などは重要な研究課題である。また、障害のある児童生徒の学びを広げるため SDGs の実現やプログラミング学習における活用なども検討課題となる。

## ■IR 研究会

### テーマ：学びの多様性に貢献する IR 活動

【コーディネータ】森 雅生（東京工業大学）  
石井 雅章（神田外語大学）

#### 【趣旨】

高等教育のユニバーサル化に伴い、大学で学修する学生の資質・能力・特性は多様化している。IR (Institutional Research) は、大学等の高等教育機関の現状をデータとして把握するための調査・研究調査であるが、その成果は当該機関の全体的な傾向を掴むだけではなく、そこで学ぶ学生の特徴を把握し、そのばらつき(分布)を把握する際にも力を発揮する。IR を通じたこれらの分析は現状把握から将来予測、効果的な対策の検討に至るまで、幅広い領域で必要とされる。

本課題研究では、個別最適化された学修機会の提供や中退予測、学習支援や IR を含めた組織体制の構築等、学生の多様性に対応した IR 活動についての研究及び実践について幅広く議論をおこなう。また、学びの多様性に貢献する IR 活動においては、AI の活用についての検討を外すことはできないため、AI を効果的に活用した IR 活動に関する研究及び実践についても議論する。

## ■プログラミング教育研究会

### テーマ：AI 時代のプログラミング教育の在り方

【コーディネータ】小熊 良一（群馬大学）  
本郷健（大妻女子大学）

#### 【趣旨】

AI リテラシーに関する指針が示され、時代は新しいステージに向かっている。プログラミング教育研究会では、各種発達段階におけるプログラミング教育の実践事例を収集すると共に、その効果を幅広く発信したいと考えています。令和4年度は、AI 時代の学びと多様化を受け、「プログラミングと脳科学」、「プログラミング教育の効果とその測定方法」、「具体的な実践例と学習効果を上げる工夫」など、多くの先生方にご提案いただければと思います。教育のグローバル化や AI など情報が飛躍的に増加している予測困難な時代を児童・生徒が生き抜くためのプログラミング教育について、協議を深めていくことができると考えております。

## ■教職開発研究会

### テーマ：学びの多様化に対応する授業技術・教材開発

【コーディネータ】佐藤 典子（甲子園大学）

治京 玉記（大阪夕陽丘学園短期大学）

#### 【趣旨】

新学習指導要領に基づき、情報活用能力の向上のため、学校の ICT 環境整備と ICT の利活用が促進されている。そして、学習活動の充実を図るべく様々な工夫が行われており、学習者ひとり一人に適した学習空間の創出の必要性が議論されている。近年、高等教育においては、基礎学力の低下と学力のばらつきが問題となっているが、その問題に対応するため、入学前教育の内容、方法の検討が行われており、教育 AI である AI ドリルの活用が模索されている。リメディアル教育としては、入学後の学生の基礎学力の向上のため、ICT を活用したチーム基盤型学習の試みが行われている。「誰一人取り残さないオーダーメイド教育」を目標として、パラダイムシフトが起きていると言える。AI 時代における学びの多様化を考えるため、教員養成、カリキュラムの検討、授業技術、教材開発、評価について、幅広い分野、校種での教育実践について紹介いただき、さまざまな角度から検討・検証し、討議を深めたい。

## 【4】 特別セミナー（8月27日(日) 13:00～14:00）

### 教育情報の新たなアプローチ

### ～プログラミング教育の学びと脳研究～

登壇者：本郷 健（大妻女子大学）

#### 【趣旨】

プログラミング学習と脳の可塑的变化を探る研究から、学習によって可塑的变化を有意に引き起こす部位の存在が明らかになってきた。それらの部位が司る機能は、目的達成機能、演繹機能、報酬機能（学習意欲）など汎用的能力と関係することも明らかにされつつある。こうした学習と脳の研究を進めてきた過程での手続きや課題について情報を共有してみたい。

今回登壇者らが進めてきた研究のねらいや手続きと成果を一つの事例として報告することを通して、教育情報の新しい領域のアプローチの仕方など仲間と話し合う機会を作り、教育情報研究のブレークスルーの一つのきっかけとしたい。





## 《2》 発表申込期間

2023年3月1日（水）～4月28日（金）

## 《3》 申込完了メール

・Web上の「発表申込みフォーム」からのお申込みが完了すると、お申込み時のEメールアドレスへ『発表申込み完了メール』が送信されます。

※申込完了後は『発表申込み完了メール』が届いていることをご確認ください。

## 《4》 発表採否通知期間

・5月中旬頃（発表のお申込みが完了した方には、発表の採否をメールで連絡します。）

## 《5》 原稿作成

- ・発表採択の方には、原稿の執筆要項（word形式ファイル）をお送りします。
- ・論文の原稿枚数は、課題研究は **4枚**、一般研究は **2枚**とします。

## 《6》 原稿提出期間

・2023年6月1日（木）～7月4日（火）

## 《7》 課題研究に関する注意事項

- ・課題研究は各研究会のテーマに沿って研究発表題目をつけてください。
- ・課題研究発表は年会実行委員会で調整し、テーマごとに担当コーディネータが検討し、審査します。その結果、発表「否」となる場合もあることをあらかじめご了承ください。
- ・課題研究として発表できない場合でも、課題研究分を一般研究発表として発表していただくことがあります。
- ・第1発表者として課題研究発表は、1人につき1件のみとします。ただし、年会実行委員会から特に依頼された課題研究発表についてはこの限りではありません。

## 《8》 一般研究に関する注意事項

- ・第1発表者としての一般研究発表は、1人につき1件のみとします。
- ・発表等の時間は、発表10分、質疑4分、交代1分です。
- ・一般発表は会員の方のみ発表可能です。

## 《9》 発表申込フォームの書き方

- ・共同研究者は何人でもかまいません。
- ・概要はなるべく具体的に書いてください。
- ・キーワードは5語以内とします。このうち上記表のキーワードの中から2～3語を選択し、それ以外のキーワードは自由に設定してください。
- ・発表者の方へは、発表申込登録内容に関して問い合わせる場合がありますので、連絡先の変更が生じた際は、年会事務局までご連絡をお願いいたします。

## 《10》 原稿提出フォームの書き方

- ・原稿は、執筆要綱に従い作成していただき、PDF形式に変換後、原稿提出フォームからご提出ください。

## 《11》 参加フォーム

- ・参加申込みの際には、参加費などの振込完了後、参加申込フォームより参加手続きを行ってください。

## 《12》 発表会場

- ・会場で使用できる機器は、プロジェクタです。パソコンは各自で持参してください。
- ・発表の会場の詳細については、今後の新型コロナウイルスの感染拡大の状況を踏まえて、後日連絡させていただきます。

# 【6】 年会の参加方法

## ① 参加申込

次号ニューズレターで、申込方法や開催方法等の詳細についてご案内いたします。

## ② 参加費用

- ・参加費、年会論文集代は下記のとおりです。
- ・なお、支払方法につきましては、次号のニューズレターでご案内いたします。

### ○参加費

- ・会員事前申込締切日まで  
参加費 3,000 円 論文集費 4,000 円 懇親会費 5,000 円
- ・会員（当日）、非会員  
参加費 4,000 円 論文集費 4,000 円 懇親会費 5,000 円
- ・後援関係の教職員、学生（会員）  
参加費 無料 論文集費 4,000 円 懇親会費 5,000 円

※課題研究と一般研究の両方にお申込みの方も参加費は 3,000 円です。

※後援教職員・学生（会員）の参加費は無料です。ただし、後援教職員・学生（会員）であっても発表者は参加費が必要です。

## ③ 論文集の郵送申込について（年会に参加されない方）

- ・年会に参加されない方で、論文集を購入希望の場合は、次号 NL 記載の振込先へ論文集代をお振り込みのうえ、年会HP内の「各種申込み」にあります「論文集郵送申込フォーム」よりお申込みください。
- ・年会終了後に論文集を送付します。
- ・論文集：4,500 円（本体、郵送費等を含む）

## ④ 後援関係の皆様

- ・新規の方の参加を歓迎します。後援・協賛いただいた教育委員会所属の教職員の参加費は無料とします（論文集を必要とされる方は論文集費は必要です）。

## 【7】 年会開催までのスケジュール

- 発表申込期間           2023年3月1日（水）～4月28日（金）
- 発表決定通知           2023年5月中旬頃
- 原稿提出期間           2023年6月1日（木）～7月4日（火）
- 参加申込期間           2023年6月1日（木）～8月5日（土）
- 論文郵送申込期間      2023年6月1日（木）～8月5日（土）

## 【8】 広告掲載募集

年会論文集用の広告を募集いたします。広告を掲載頂いた企業の方には、当日会場内ブースにて、無料で製品紹介及び展示等をしていただくことが可能です。企業のPRや情報交換の場として大いにご活用いただければ幸いです。

詳細は以下の通りとなっております。会員の皆さまにおかれましてはお知り合いの関連企業にお声掛け頂き、多くの企業の方にご参加いただけるよう、ご紹介のほどよろしく願いいたします。

協賛（料金：¥40,000）		
① 展示（1ブース） ② 広告1（論文集掲載） ③ 広告2（フライヤー配布）	論文集掲載広告	
	色	1色（モノクロ）
	頁（寸法）	1/1 頁（天地 240mm×左右 160mm）
	形式	Word, JPEG

広告掲載申込方法などは年会 HP にて告知します。その他に、ご質問がありましたら、年会 HP のお問い合わせからお願いします。

### 日本教育情報学会 運営本部事務局

〒582-8582 大阪府柏原市旭ヶ丘4丁目698-1

大阪教育大学 理数情報教育系 理数情報部門 若杉研究室

TEL: 090-1026-1413

FAX: 050-3488-5061

E-mail: [jsei@jsei.jp](mailto:jsei@jsei.jp)

HP: <http://jsei.jp/home/>